平成 27 年 1 月作成

飯山迫ノ谷しおり

八幡富士「飯山」の一角に迫の谷という地名・地番がある。古くよりカンナ流しが行われ、開拓された谷である。そこに迫（屋号）中島家がある。現在 22 代当主が守っている。白鬚神社等に奉職する社家である。迫ノ谷は約２．５ヘクタールの面積で、中島家住宅、田畑、桜池、山林等で構成されている。

240 年超の中島家住宅

住宅は八幡地域では一番古く、西暦 1770 年築である。昭和 30 年代広島大学の調査団が訪れたが、改修がすすんでおり文化財とはならなかったと聞く。神職家であることより奥の間（おおで）には天照大御神、出雲大神等をまつる神殿がある。中の間（あだ）は主に来客接待用の部屋であり、歳神様をまつる神棚（としがみさん）がある。玄関に近い間（ろくじょう）は今は居間となっているが、戦前までは蚕をかった部屋である。裏側には納戸（なんど）、そして先祖をまつる若宮舎（わかみやさん）がある部屋（うちおい）、食事部屋、今はなくなっている囲炉裏の間等で構成されている。台所には土公神（ろっくうさん）を今もまつっている。今家族は別宅に寝起きし、春秋の祭での神職の接待、先祖祭、地域の祭、あるいは盆等での親族の宿泊所として使用するのみとなっている。

歳神さんの正月飾り

明和７年の普請帳

学校だった作新舎

明治政府は明治５年、寺子屋の閉鎖を命じ新しく学制を公布したため、村々では公立の学校を自費で創設しなくてはならなかった。
明治８年、森村、田殿村、田黒村の三か村では共同で組合立小学校を立ち上げる。白鬚神社の祠官中島家の別宅を学舎とし、名前を「作新舎」と名付けた。明治９年に森学校と名を変え、初代校長は３代前の当主が務めた。児童の増加のため明治１２年に郷倉に移転するまで使われた。その後は年寄の隠居所として使用したが、今はほとんど活用されてない。

蔵左隣が作新舎

心落ち着く日本庭園

県道より小道を 50 メートル入り黒塗りの門をくぐろうとすると左には珍しい夏芽の木が目につく。母屋の屋根の千木をみつめながら邸内に入るとドウダンツツジ、金木犀、糸ヒバ、しだれ梅、とがの木、もみじ、ツツジ、サツキ等で構成された日本庭園が広がる。大きなさざんか、高野牧の後ろには奥庭が広がる。小さな池をアクセントに周りにはアオキ、榊、椿、等が雑然と植えられている。母屋、そして隠居（作新舎）の縁側に座って眺めるときの気分はまた格別である。

絶滅危惧種の翁草

歴史を感じさせる墓地

中島家 22 代に至るまでの代々の祖等、親族家族の御霊等が鎮まる墓地である。中央には大きな柿の木、檜がそれぞれ一対植えられ、その下には墓の数が百体弱。石碑も雑然とした石のものから送り名を刻印した石塔に進化し、埋葬も土葬から火葬に、葬儀も明治時代からは神葬祭となった。春秋の彼岸、そして盆に家族総出でお参りとなる。尚、春には絶滅危惧種の翁草も見つけることができる。

自宅より田んぼと飯山を臨む

飯山の麓に広がる田園

親しみのあった棚田も今は構造改善により６枚の田となっている。たんぼ道も大型農機具のために幅広くなっているが、春にはフキノトウ、ワラビ、つくし等が楽しめ、季節ごとに稲の成長を見守りながら、備後富士[飯山]を臨み桜池に至るコースは散歩道として最適である。

神秘的風情のある桜池庭園

かんな流しで開拓された時代より水源池としての堤[桜池]も平成 10 年代には樋が壊れ、また桜も老木１本となったため、平成２３年に復元工事をおこなった。鯉も入れ、桜も植え、また祠、鳥居により神秘的な雰囲気ともなっている。四季ごとに楽しめる周りの木々の色、伸び伸びと泳ぐ緋鯉の影、暫し楽しめるのである。

連絡先

〒729-5456　広島県庄原市東城町森２４１２－１
飯山迫の谷庭園管理者　中島吉穂
電話０８４７７－４－０８４２
メール　y-nakashima0102@u-broad.jp

アクセス

中国縦貫道東城インターより 314 号線を１５分北上。川鳥郵便局の３００メートル先の川を渡りすぐ左折し２００メートル坂道を上り、四差路を左折し５０メートル先右側が現地です。駐車場は５台程度なので、徒歩５分程度の八幡自治振興センターの駐車場をご利用下さい。